

京都市教育長賞

「命の大切さをもっと多くの人に」

京都市立桃山中学校 1年

大坂 昊雅

最近よく殺人事件や虐待のニュースが流れています。京都市伏見区であった「京都アニメーションスタジオ放火事件」は三十五人の方が亡くなられたとても悲惨な出来事です。

現場は僕が通学で通る場所の近くでした。現場付近には、住宅街があり、そこには僕の友達に住んでいます。もし、あの事件が僕らの下校途中に起こっていたら。と思うと、今でもぞっとします。

なぜこのような大勢の若い方々が亡くなり、僕のように心に深い傷を負ってしまわなければならない人がいるのか。それは誰でも分かる事だと思います。一人の男が人の気持ちや後先を考えないまま行動したからです。もちろん被害者、遺族、地域の方々は、この男が起こした事件に、怒りや悲しみ、憎しみがあふれ出していると思います。決して許されない事でもある今回の事件。僕としての意見は、なぜ大人が言葉で解決しようとせずに犯行に及んだのか、またそれを世の中のこれから大人になって行く人達に堂々と「これが大人の対応」と言えるものなのか。これを日々意識せずに今まで生きて来たからこう言う事件を起こしてしまうと考えています。

犯人が犯行に及んだ事で様々な事がネットニュースになっています。これが第二の怖さでもあります。

ネットは正しい情報と間違った情報が混雑している世界。ただでさえ信用がつかないと言うのに、ネットでは、犯人は韓国人だと言うデマが広がっていたり、犯人の趣味や、顔画像、家族構成や犯人の詳細までもが出回っていました。全て正しいのかどうか分からないものです。ネットは、何かの事件があると、すぐに正しいのかどうかも分からない情報を次々と投稿し、その人の個人情報まで出してしまう事が出来る怖いものでもあります。

これらの事に対し、僕としての意見は、まずそれらの信用のつかない投稿をする前に、その人の立場になって考えること。そしてもう一つ大事な事。それは自分を客観的に見ること。なぜなら、ネットは、写真や文で伝える物である。なので、自分の思った通りの文が書けない事だってよくある。その文は、自分では本当の意味が分かるが、それを見た人には誤解される事もある。そんな面もあるという事も踏まえて考えてほしいです。

では、逆に応援のメッセージはどうなるのでしょうか。応援のメッセージは、被害を受けた方の事を思いやれています。その文を見た被害者の方や、周りの人は、心が暖まり、みんなの心を一つにするというとても素晴らしい事にもつながると思います。僕は全ての人々がこういった暖かいコメントが出来るような人になって欲しいと思います。

この事を実現するために、まずこれから大人になってゆく僕達の世代から直していくべきだと思います。なぜなら、例えばラインなどで、相手が傷付くようなコメントを複数人の人が軽い気持ちで書いてしまい、その書かれた子が自殺するといったケースがこの世代他に比べてあまりにも多いからです。

これをなくすためには、「感情任せに行動する」ことをしない事です。

これら全ての事に感しての事で、一部例外なものもある事も知っておいて欲しいです。それは親の教育です。僕や、ほとんどの家庭では、命の大切さなど基本的な事は教えてもらっていますが、そうでない人もいます。その場合は「子が悪いんじゃないくて、親が悪い。」事に当てはまります。こんな結論になるのも当然な事だと思います。なぜなら、その子が友達に暴力を振るったとして、相手をけがさせてしまったが、親に基本を教えてもらってないから常識が分からない。親の教育を必要とする子全員へ親が手を差し伸ばせるようになる未来へとしていきたいです。

最後に僕としての主張をします。

「命の大切さ」とは、一度しかない命。生まれてきた事の奇跡。クラスメイトとめぐりあえた事。何にも変えられない命。当たり前のように日々変わらない生活を送り、生き続ける。しかし、世の中には生きてくても生きれない人はたくさんいる。日々変わらない生活を送りたくても送れない人だっていっぱいいる。なのに、日々生きている人が軽い気持ちで「死にたい。」などと言うのは許せない。この間の放火の事件でも、たくさんの若い人が亡くなった。その人達には夢があった。それを一人の人間が壊した。なぜその人はそんな事が出来たのか。それは命を軽く見ていたからだ。このような人にならないようにするには、命の大切さをよく理解し、日々生きる事と、困った時は誰かに相談する事が大切だと思いました。

そして、僕は今日という日を全力で生きて、生きれなかった人達の分まで生きていきます。